

第 5 回 日本視機能看護学会会員情報交換会報告

- テーマ：眼科におけるスタッフ教育の現状と課題について
～手術室看護師の教育課程について～
- 日時：2021年7月3日（土） 14：00～15：15分
- 方法：ZOOMによる意見交換会
- 参加人数：10名（日本視機能看護学会役員含む）
- アドバイザー：日本視機能看護学会 大音清香名誉理事長
- オブザーバー：比嘉眼科病院 比嘉比呂子様



今回は、眼科専門病院 4 施設、眼科クリニック 1 施設、アドバイザーとして当学会の大音名誉理事長、そして、比嘉眼科病院の比嘉比呂子様にご参加いただき大変有意義な意見交換会となりました。テーマは、手術室看護に焦点を絞り、教育システムや課題、器械だしに必要な能力や知っておくべき知識などについても具体的に PPT で説明していただき貴重な情報を共有することができました。

まず、手術室の教育課程について、安楽な体位確保などの接遇、中央材料室、器械だしの順にプリセプターが指導を行い、外回りの段階ではチームの一員として新人の主体性を引き出すようチーム全体で支援している。更に、手術室経験の有無に応じて個別にサポートを行い、執刀医との振り返りなどをとって知識や技術の習得に努めているなどの報告がありました。また、入職後より外来、外来処置、病棟、手術室まで 1 年間の教育プログラムを立案、実施することで計画的に人材育成を図っている施設もありました。特に、器械だしについては、施設によっても要求される能力は異なりステップアップするためには予想と余裕が相関関係にあり、術式の理解、つまり知識に裏付けされた技術の習得、反復や OJT など経験に基づいて成長することで余裕もでき安全な医療の提供につながる。上手いかなかったときに、知識を補うには直接医師に聞くことも勉強になる。などの意見も聞かれました。

最後に、新人のモチベーションを上げるためにどのような働きかけが必要か？手術室に向いていないスタッフをどのように育てていくのか？などの課題について、アドバイザーの名誉理事長からは、叱られる場面が少なくなった昨今において、個人の気付きも少なくなっている。指導者は、常に新人を見て働きかけ、その日のうちに出来るだけ声掛けを行い術野目視の必要性をアドバイスするなど話し合いの場を持つことに留意する。教えられる側は自己責任の中で学び自己啓発を進めるうえで、自身の手技が良いのか悪いのかの評価を受けることも必要となる。今後は、遠隔医療の発展や眼科医療の動向を意識して、看護師も何を行えばよいのかを考えて行動を起こすことが重要である旨ご教授いただきました。

尚、比嘉眼科病院の比嘉比呂子様から、第 37 回日本視機能看護学会学術総会 Web 開催のご案内がありました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。